

全国建具展示会 注目作品誌上展示

デザイナーや学生との共作で新機軸を示す 建具のデザイン性を多様に提示



デザイナーとコラボレーションした建具作品

第53回全国建具展示会が6月14日と15日の2日間、愛知県名古屋市熱田区の名古屋国際会議場で開催された。今回は建具のデザイン性に着目し、デザイン関係の団体や教育機関

とのコラボレーションを企画。愛知県建具協同組合の組合員と中部デザイン協会の会員との共同開発作品、名古屋学芸大学と愛知県建具協同組合との産学連携コラボレーション企

画など、デザインという視点から木工を考察。様々なアイデア作品が提案された。ここではデザイナーや学生とのコラボ作品の紹介、それと全国建具展示会を彩ったユニークな作品を誌上展示する。

◎「パーティション光と影」

あうる建築工房(有)・(有)中家木工・八木建具店

パブリックスペースに設置されるソファやマツサージチェアなど、くつろぎ空間の間仕切り壁となる。間仕切りの効果で周囲から独立してプライベートな空間を作ると共に、ルーバー形状を採用したことによって空気が通り、屋内の空調を妨げず、採光の効果も有している。

◎「四季窓 SHIKI・SOU」

鈴木光太氏・藤本建具

日本建築の伝統的建具である襖や障子を現代建築のアイテムであるドアに応用。ドアが閉まっている状態でも、内部に設置したミニ障子を開ければ、風を通すことや光を取り入れることが可能になる。伝統的な建具の知恵を現代に活かし、四季の変化にも柔軟に対応する機能を重視し